アジアインドアゲームズ2009ハノイ参加報告書

選手団総務担当　小　成　裕　之

【期　日】

２００９年１１月４～７日

【開催地】

ベトナム　ハノイ

【選手団】

監　督	碓　井　　進
選　手	木　下　あけみ
	氏　原　理恵子
	小　成　裕　之
	大　江　康　照

１　アジア室内競技大会

アジア室内競技大会(Asian　Indoor　Games)は、アジアオリンピック評議会(ＯＣＡ)により、２年に１度開催されるスポーツ競技大会である。アジアインドアゲームズとも呼ばれ、２００５年に第１回大会がタイで開催されている。アジア競技大会、アジア冬季競技大会やオリンピックにない競技が中心である。

本大会で行われた競技は、次の種目である。

・陸上競技　・水泳/競泳　・フットサル　・ボクシング　・バスケットボール(3on3)
・ボウリング　・アーチェリー　・武術太極拳　・ビリヤード＆スヌーカー　・カバディ
・ダンススポーツ　・チェス　・キックボクシング　・ムエ　・プランチャックシラット
・クラッシュ　・エレクトロリックスポーツ　・シャトルクック　・エアロビクス
・ペタンク　・ボーヴィナム　・フィンスイミング　・ライオン＆ドラゴンダンス
・柔術＆ベルトレスリング

なお、ペタンクは本大会より正式種目として採用された。

２　大会日程

●11月3日　　9:00～監督会議・組合わせ抽選
●11月4日　　8:00～開会式
　　9:00～シングルス予選
●11月5日　　10:00～シングルス準決勝・決勝
　　15:00～ダブルス予選(2試合)
●11月6日　　9:00～ダブルス予選(5試合)
●11月7日　　10:00～ダブルス準決勝・決勝
　　16:00～表彰式・閉会式
●11月8日　　20:00～全体閉会式

監督会議の模様

３　大会会場

ペタンク競技の大会会場は、「Tu Liem Gymnasium」というバスケットコートが２面ほどとれる広さの体育館で行われた。会場はハノイ市内の西に位置し、市内中心部より車で約30分の場所である。ホテルからの移動はバスであり、白バイが先導してくれたおかげで、バイクと自転車で混雑する交通事情も比較的スムーズに移動することができた。

大会会場外観

テランは、フローリングの上に約10cmの土を入れて硬く転圧し、直径１cm前後の砕石を敷き詰めたものである。男子と女子にコートが分かれており、それぞれ横に隣接して競技コート４面が設けられ、その両側にサブコートがあり、結果的には６コートが隣接している状態で設営されていた。サブコートが設置されているのは練習用ではなく、近年のルール改正で、コートラインとは別に無効ラインを設けることが削除になったことや、隣接するコートの一つ以上を越えたビュットやボールが無効になるという改正があったことから、４面全てのコートで平等なルールが適用されるように配慮されたものである。

会場内

ポワンテは、ポルテが理想ではあるが、ドゥミ・ポルテやルーレットでも技術があれば、比較的安定して寄せることができると感じた。技術とは言うまでもなく、ボールの質、つまり回転のよいボールでイメージ通り狙った場所に落とすことができることである。

ティールは、対象球の約10cm以内に着地すれば当たる確率が高く、入れ替わりのカローも多く見受けられた。いずれにしても技術力がそのまま勝敗に現れるテランであった。

会場内での練習は原則禁止であるため、会場の外に練習場が設けられていた。ここは本会場より砕石の量が多く、ポワンテは高めに投げれば寄せやすく、ティールも５割に近い確率でカローになるため、各国の練習試合では、メーヌの第１投目をあえてビュット横１mに寄せる作戦をとるチームもあった。

競技コートとサブコート

テラン

４　予　選

本大会の参加国は男女共に右図のとおりである。毎年、アジア選手権大会に参加している国であっても欠場していた国が数カ国あった。これは、本大会の派遣母体がその国のNOC（オリンピック委員会）であるため、その国のNOCと関係を持っていない国については、派遣が認められなかったものと推測する。そのため参加選手の顔ぶれ、技術を見る限り、その国の最強メンバーであったと思われる。

1	インド
2	カンボジア
3	シンガポール
4	タイ
5	**日本**
6	ベトナム
7	マレーシア
8	ラオス

予選はリーグ戦（総当り）で行われ、上位４チームが決勝トーナメントに進出する方式で行われた。

予選の初戦は、女子がタイ、男子は地元ベトナムとの対戦であった。女子のタイチームは、過去５回の世界女子選手権大会で、５回とも決勝戦まで進出しており、うち３回優勝している世界ナンバー１の実力国である。結果は女子が１-13、男子が４-13でいずれも敗戦した。特に男子は得点が４-８の状況から６球ポワンテし、６球カローされて６点（５点でゲームセット）取られるという最悪の負け方をしてしまった。試合後、冷静に考えると３球カローされた時点で、もっと作戦を考えるべきであったのだが、遅きに失してしまった。

男子はその後、インドに勝つものの、実力的には格下のシンガポールに12-９から逆転負けを喫し、予選成績１勝６敗で７位に終わった。

一方、女子はインドに13-２で勝利、シンガポールには惜しくも９-13で負けたが、続くマレーシアに13-10、格上のラオスに13-８で勝利、カンボジアに４-13で敗戦したが、ここまで、３勝３敗と決勝トーナメント進出をかけ、期待の持てる成績で最終戦を迎えた。最終戦は地元ベトナムとの対戦である。この試合に勝てば、予選３位が確定、負ければ５位という大一番である。

日本が優位にゲームを進め12-９とリードし、あと１点で勝てる場面までいき、ほぼ「勝った」と思う場面もあったのだが、ベトナムの奇跡的なプレーもあり、惜しくも逆転負けをしてしまった。勝つことの難しさ、国際大会の恐ろしさを実感した試合であった。結果女子は、３勝４敗で惜しくも５位に終わり、男女とも予選突破はならなかった。

※予選結果（女子）

No.	国　　名	1	2	3	4	5	6	7	8	勝敗	順位
1	マレーシア		1-13 ×	13-11 ○	3-13 ×	9-13 ×	10-13 ×	3-13 ×	13-2 ○	2-5	6
2	カンボジア	13-1 ○		13-2 ○	11-13 ×	6-13 ×	13-4 ○	13-8 ○	13-1 ○	5-2	2
3	シンガポール	11-13 ×	2-13 ×		4-13 ×	7-13 ×	13-9 ○	8-13 ×	13-0 ○	2-5	7
4	ラオス	13-3 ○	13-11 ○	13-4 ○		9-13 ×	8-13 ×	9-13 ×	13-4 ○	4-3	4
5	タイ	13-9 ○	13-6 ○	13-7 ○	13-9 ○		13-1 ○	13-7 ○	13-0 ○	7-0	1
6	**日本**	**13-10 ○**	**4-13 ×**	**9-13 ×**	**13-8 ○**	**1-13 ×**		**12-13 ×**	**13-2 ○**	**3-4**	**5**
7	ベトナム	13-3 ○	8-13 ×	13-8 ○	13-9 ○	7-13 ×	13-12 ○		13-0 ○	5-2	3
8	インド	2-13 ×	1-13 ×	0-13 ×	4-13 ×	0-13 ×	2-13 ×	0-13 ×		0-7	8

※予選結果（男子）

No.	国　　名	1	2	3	4	5	6	7	8	勝敗	順位
1	マレーシア		2-13 ×	13-4 ○	6-13 ×	1-13 ×	4-13 ×	13-0 ○	13-6 ○	3-4	5
2	タイ	13-2 ○		13-2 ○	13-5 ○	13-0 ○	13-10 ○	13-1 ○	13-2 ○	7-0	1
3	**日本**	**4-13 ×**	**2-13 ×**		**4-13 ×**	**3-13 ×**	**4-13 ×**	**12-13 ×**	**13-3 ○**	**1-6**	**7**
4	ベトナム	13-6 ○	5-13 ×	13-4 ○		11-13 ×	5-13 ×	13-3 ○	13-1 ○	4-3	4
5	ラオス	13-1 ○	0-13 ×	13-3 ○	13-11 ○		10-13 ×	13-0 ○	13-0 ○	5-2	3
6	カンボジア	13-4 ○	10-13 ×	13-4 ○	13-5 ○	13-10 ○		13-6 ○	13-0 ○	6-1	2
7	シンガポール	0-13 ×	1-13 ×	13-12 ○	3-13 ×	0-13 ×	6-13 ×		13-6 ○	2-5	6
8	インド	6-13 ×	2-13 ×	3-13 ×	1-13 ×	0-13 ×	0-13 ×	6-13 ×		0-7	8

５　まとめ

まず、男子に関しては、相手チームが投げるビュットの距離が、これまで経験した国際大会では６～８ｍの距離が多かったが、本大会では９ｍ前後の距離がほとんどであり、６・７ｍ台の距離はほぼなかった。遠い距離になればなるほど技術力が要求されるため、運に左右されることが少なく、よりレベルの高い域で勝敗が争われることになる。言い換えれば、それだけ高いレベルの技術力を持っているということである。

2008年まで世界選手権は44回開催されているが、過去５回のアジアからの参加国を見ると、毎回出場しているのがタイと日本の２カ国だけであり、シンガポールが４回、マレーシア３回、ラオス、カンボジアが２回と続いている。成績は、タイが準優勝１回、３位を２回記録しており、この成績だけをみると、世界選手権８連覇中のフランスに続き世界ランク２位である。また、2004年にカンボジアが３位に入っており、仮にラオス、カンボジア、ベトナムが毎回世界選手権に出場することができれば、世界選手権での順位やレベルの勢力図に変化が生じることは間違いないと思った。実際にインドアゲームズベスト４との対戦では、ベルギー、チュニジア、イタリアといった世界選手権の上位国と対戦しているようであった。

女子に関しては、タイの強さが目立った。本大会で優勝し、翌週に行われた世界女子選手権でも優勝、さらに直後に行われたアジア選手権でも優勝し、その間、１度も負けることなく、24連勝している。しかし、全てが完璧かといえばそうではなく、本大会の準決勝ラオス戦では、ティールの当たる確率が激減し、ポワントゥールとティルールが何度となく交代しながら戦っていた。おそらくこの試合に限り５割は当たっていなかったと思われる。ラオスにはチャンスであったが、同じくティールが当たらず、13-10でタイが勝利した。

男子決勝戦　タイVSラオス

個人的に目立った選手は、タイの「プサ・アド」選手である。彼は2005年、2006年の世界選手権ティールコンテストで２連覇した選手であるが、ここ数年はポワントゥールとして活躍している。彼のポワンテ(ポルテ)技術は群を抜いており、ボールの回転、弾道、着地点、転がる距離が常に一定し、ミス投球はほとんどない。彼が１球ポワンテし、相手チームがそれをティールしなければ、それ以上寄った球は全てティールをし、ティールされればまた寄せる。ごく単純な作戦で坦々と試合を進め、勝ち続けているようであった。

右がプサ・アド選手

ペタンクにおいて戦術と技術は密接な関係にあるが、高い技術力があれば戦術は難しく考える必要はあまりない。高い技術力があれば成功する確率が高いということであり、仮にティールの当たる確率が90％あれば、６球続けて当たる確率は53％になる。この場合、全球ティールの戦術をとっても、２分の１以上の確率で大量得点が取れ、失点したとしても１点程度である。一方、技術力があまりない場合、失敗することも想定しながら戦術を組み立てなければならないため、選択肢が多くなりより難しくなってくる。

本大会では結果としては何も残すことができなかった。しかし、本大会での経験は、４名各々が今後の日本のペタンク界に微力ではあるが何らかの形で貢献していきたいと考えている。最後に、本大会出場にあたり、ご協力いただいた関係機関、関係者に感謝申し上げ簡単であはあるが、報告とさせていただく。

女子表彰式

閉会式

★出場選手からの報告

木　下　あけみ（岡山県）

大会審判長と

今回アジアインドアゲームズに参加させていただいて、本当に感謝しています。とても良い経験をさせていただきました。

半分日本代表というプレッシャーと半分ワクワクして楽しみという気持ちで臨んだ大会でしたが、世界とのレベルの差を痛感しました。世界のトップレベルの選手と互角に戦うには力不足でした。

今回ダブルスに参加して思ったのは、どの国もポワントゥールとティルールというよりは、ミリューの二人組みという印象でした。そして二人ともティールの確率は100％であると言っても過言ではありません。そのすごさには圧倒されました。

何とか３勝できましたが、国際大会の経験不足、世界の壁を感じました。この経験をもとにもっと練習して、チャンスがあればまた挑戦したいです。

氏　原　理恵子（長野県）

マレーシア、ラオスの選手と

11/２～９ベトナムハノイで開催されたアジアインドアゲームズのペタンク女子ダブルス種目へ参加させていただきました。

アジアの一流選手と対戦し、技術の未熟な自分をとても情けなく感じるとともに、アジアの選手たちのミスのない正確な技術や確実に点を重ねる戦術等を間近に学ぶことができ、たいへん勉強となりました。

あたりまえのことですが、どのようなテランであっても思ったところへ寄せられるポワンテやミス無くあてられるティールの高い技術を持ち、さらにどんな状況であっても平常心を保ち、強気で勝負できる精神力が具わった一流選手を目指すには、ただ練習あるのみと痛感いたしました。

今回、木下さんと組ませていただき、また事前の強化合宿を他の選手の方々とさせていただきましたが、このことは私にとっていろいろな刺激となりました。常日頃の地元での練習だけでは得られない技術や戦術を学びあう機会や環境は、今後の日本全体の個人レベルやチーム力の向上に必要なのではないでしょうか。

また、この大会に参加するにあたり、地元ペタンククラブ連合会の仲間や、大会で知り合った協会会員さんから激励の言葉をたくさんいただきました。それは精神的に大きな支えとなるとともに、代表という重責を背負う自覚が私の中に芽生えました。このような組織としての応援は、良い選手や指導者の育成につながると同時に、ペタンク愛好者の増加やさらなる組織強化になると思われます。今後も日本全体の組織強化や指導者の育成、強化合宿などレベル向上をめざした環境づくりなど、是非お願いしたいと思って帰国をしました。（生意気で申し訳ありませんが、私自身もそのことに少しでも貢献できたら嬉しいと思っています。）

今回の大会では、技術や精神力が伴わず木下さんにご負担をおかけすることが多かったと反省ばかりが残りますが、この経験を今後に活かしたいと思います。最後まで一緒に戦ってくださった木下さん、精神的に支えてくださった監督や男子チームのお二人、日頃から一緒に練習し応援してくださった地元ペタンク連合会のみなさま、このような機会を与えてくださった全ての協会員の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ボランティアスタッフと

遠かった・・・あと１点

大　江　康　照（京都府）

２００９年１１月４日からベトナムのハノイで行われたアジアインドアげームズについて報告させていただきます。前日に公式練習が練習用のテランで行われました。試合用のテランは、地面が固く砂利がまばらに入っているいつものテランでした。今回は砂利は細かなものでした。今回私は、小成選手と組んでダブルスに出場しました。

ポアンテは、やはりポルテが有効で、ティールは、ダイレクトティールが要求されるテランでした。試合内容については、各国ともかなりレベルの高いものが必要とされるものでした。ビッユトの距離は、どの国も約１０メートル近い距離での勝負でした。

まず、ポアンテについてですが、３球とも少なくとも５０センチぐらいには寄せることが必要でした。これは、かなりのボールコントロールが必要で、アジアのレベルの高さを痛感しました。国際大会でポアンテをするには、かなりの練習をし、レベルを上げないとゲームが組み立てられないことを再認識しました。

次にティールについてですが、小成選手もかなりの確率でボールに当てるのですが、カローになる確率の違いがありました。これは日本では考えられないほどのレベルです。ゲームの組み立て方については、まず個々のレベルを上げることが必要ですが、日本国内の練習でも国際大会と同じような組み立て方を練習し経験を積むことが重要だと感じました。

今回は、結果を残すことが出来ませんでしたが、今後さらなる練習を積み結果が残せるようなアスリートを目指し頑張っていきたいと思います。簡単ではありますが、報告とさせていただきます。有難うございました。

難しかったポワンテ

ＪＯＣの役員方と